

筑波経済月報 No.115 2023. 2

企業探訪

「人の和＝輪」を大切に 夢ある未来を創造する創業300年企業

株式会社伊勢基本社

支店長のわがまち紹介

持てる資源と最新技術を掛け合わせ、時代の流れを捉える

かすみがうら市

研究員レポート

第77回「茨城県内企業経営動向調査」(2022年12月調査)

2022年冬季ボーナス支給に関するアンケート調査

筑波総研 株式会社



風返稻荷山古墳出土品



(写真提供/かすみがうら市)

「風返稻荷山古墳」は、霞ヶ浦に突き出した通称「出島半島」の北西端、霞ヶ浦と菱木川とに挟まれた高浜入りを北に望む標高20mの樹枝状台地に位置する墳丘主軸全長約78m、後円部径約43m、前方部長約35m、前方部幅約57m、後円部高さ約10m、前方部高さ約8mの前方後円墳です。

昭和39年に日本大学考古学会によって発掘調査が行われ、くびれ部から箱形石棺、後円部から横穴式石室が発見されました。くびれ部の箱形石棺からは、円頭大刀、金銅製耳環、ガラス玉等が出土し、さらに箱形石棺から北西に約1m離れた場所から、轡、杏葉、辻金具、鏡板、鞍金具が発見されました。これらは馬具一式と考えられ、雲珠に布及び木質の付着がみられることから、馬具は布で包まれて木箱に収められていたと考えられています。

後円部には、南に開口する前室後室からなる横穴式石室があり、後室には奥と左右に3つの箱形石棺が置かれていました。出土遺物としては、奥の箱形石棺から金銅製耳環、東の箱形石棺から頭椎大刀、円頭大刀、銀装刀子等、西の箱形石棺からは金銅製耳環等が発見されました。

また、前室の奥からは、直刀、鉄鏃、鉄鏃、銅腕、杏葉、雲珠、辻金具、鞍金具、刀子等がまとまった状態で出土しました。さらに、その南側からは、弓弭、刀子、装身具、直刀、須恵器が出土しました。本古墳は、6世紀末から7世紀初頭にかけて4回の埋葬行為が行われたと考えられています。

2022年11月18日、古墳時代後期における金属加工の製作技術や種類などを知るための重要な考古資料だとして評価され、出土品のうち、53点が国の重要文化財に指定されました。

出土品はかすみがうら市歴史博物館に収蔵されています。次回公開時には、ご家族や親しいご友人とともに、古墳時代に想いを馳せながら見学してみたいかですか。



《Information》

かすみがうら市歴史博物館

- ◆所在地
茨城県かすみがうら市坂1029-1
- ◆開館時間
午前9時～午後4時30分
- ◆休館日
毎週月曜日、
年末年始（12月28日～1月1日）
※祝日が月曜日と重なる場合は開館し、
翌日の火曜日が休館となります。
- ◆お問合せ
電話：029-896-0017